

担い手通信



第31号
平成29年3月発行

大仙市 農林部 農業振興課
大仙市大曲花園町1番1号
電話：0187-63-1111
FAX：0187-62-9388

今回のラインナップ

- ★平成28年度大仙市農業研修会 開催のお知らせ
- ★「新たな農業経営指標」を活用しましょう！
- ★第9回大仙農業元気賞受賞者の紹介



～今後の農業経営の参考に～ 平成28年度『大仙市農業研修会』を開催します！

今回の大仙市農業研修会は、大きくわけて2部の構成となっております。

第1部は、大仙市新規就農者研修施設（東部・西部）の研修生による研修報告や、若手農業者で組織される「仙北地区農業近代化ゼミナール」の活動状況について報告をいただき、これから就農を目指す方や新規就農者との情報共有・相互研鑽の場とすることで、今後の大仙市農業を担う人材の確保・育成を図ります。

第2部は、秋田県農林水産部水田総合利用課の大友政策監をお招きし、今後の生産調整の見直しや、秋田県農業の見直しについてご講演をいただきます。

国による米政策の見直しによって、行政による生産数量目標の配分が平成30年産から廃止されますが、これによって、様々な問題が危惧されています。

このような問題に秋田県としてどのように対応していくのか、現在予定されている生産調整の見直しの内容とともにご講演をいただき、情報の収集と見識を深め、今後の農業経営に生かしていただくことを目的としています。

参加をご希望の方は、農業振興課または最寄りの各支所農林建設課まで、参加申込をお願いいたします。

■日時：平成29年3月27日（月）午後1時～午後4時

■場所：神岡農村環境改善センター（大仙市神宮寺字下川原前開100）

■内容：（1）報告

- ① 大仙市新規就農者研修施設研修生研修報告
報告者：東部・西部新規就農者研修施設研修生 16名
- ② 仙北地区農業近代化ゼミナール活動状況紹介
報告者：仙北地区農業近代化ゼミナール

（2）講演

「秋田米をめぐる状況と30年産以降の米づくりについて（仮題）」
講師：秋田県農林水産部水田総合利用課
政策監 大友 義一 氏



「新たな農業経営指標」を活用しましょう！

取組目標	項目	取組内容	取組状況	取組の進捗
経営管理	1 目標設定	中長期的に目指す経営の姿を経営目標として定め、家計・経営計画を策定している。	①	○
	2 計画立案	目標達成に向け経営計画を立て、それに基づき実践を行っている。	②	○
	3 評価・改善	定期的に経営状況の検証・評価を行い、経営改善を図っている。	③	△
生産	4 作業記録簿	経営の改善記録を基盤として、作業の改善に役立てている。	①	○
	5 採利管理	採利管理の比較・検討を行い、採利を決定している。	②	△
販売加工	6 コスト管理	生産に係るコストを管理し、収益の増加を図っている。	②	△
	7 採み把握	販売先別に、自らの生産物の品質や特性の把握を行っている。	②	○
	8 販路確保	複数の販路を比較・検討して販路を決定するなど、安定的な販売のための取組を行っている。	①	○
労務	9 付加価値	リスクへの備えをしながら、農産加工や農産物の加工・付加価値の向上に取り組んでいる。	③	×
	10 資金区分	経営の発展と資金と資金の確保を明確に区別している。	②	○
地域活動	11 財務諸表	財務諸表を整備し、適切な財務管理や税務申告を行っている。	①	○
	12 労働環境	家族・従業員の見守りをするために、労働環境の改善に取り組んでいる。	①	○
地域活動	13 福利厚生	家族や従業員のための、必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。	③	○
	14 地域活動	地域農業の発展に資する活動を行っている。	①	○

項目	28年度	29年度	30年度
収入	12,817,000	12,817,000	12,817,000
経費	8,200,000	8,200,000	8,200,000
利益	4,617,000	4,617,000	4,617,000

「新たな農業経営指標」は、農業経営の状況を確認し、経営の改善を進めるために活用していただくものです。

参考例をもとに、農業経営の状況や目標などを記入しましょう。記入後は、農林水産省ホームページにある「経営改善実践システム」にその内容を打ち込むと、評価結果シートができていきます。記載方法やパソコンの入力方法がわからない場合は、遠慮なくご相談ください。

農林水産省ホームページ

- 組織・政策
- 経営
- 新たな農業経営指標
- 経営改善実践システム



～大仙市農業の若きけん引役として期待!!～ 第9回大仙農業元気賞に4人を表彰

大仙市内に居住する若手農業者で、先進的な取り組みに挑戦したり、地域や団体のリーダーとして活躍するなど、将来の大仙市の農林水産業を担う方々を表彰するために制定した「大仙農業元気賞」も、今年度で9回目を迎えました。

今回の受賞者は、平成28年9月13日に開催された表彰選考委員会において、関係団体などから推薦のあった方々から次の4名に決定しました。また、10月19日には、大曲エンパイヤホテルで表彰式並びに受賞祝賀会が開催されました。



すずき たかゆき
鈴木 貴之さん (昭和50年生まれ 大仙市北楯岡)

専門学校を卒業後、会社員として勤務したのち、平成21年に地元へ戻り「株式会社RICEBALL」を設立して代表取締役就任されました。

法人設立当初は、会社勤務の経験を生かして、地元農家からコメを集荷し、関西方面を中心に販売をしていましたが、平成25年からは農業経営改善計画の認定を受け認定農業法人となり、米の生産に本格参入。現在は地域の農地の集積を図り、約70haで「あきたこまち」にこだわった農業経営を実践しています。

昨年9月には、自社生産した「あきたこまち」を手作りおにぎりにして販売するアンテナショップ「ONIGIRI ICHIGO (おにぎり1合)」を東京の代官山にオープンさせており、6次産業化とコメの消費拡大にも取り組まれています。



すずき くにひろ
鈴木 邦洋さん (昭和60年生まれ 大仙市鍵見内)

大学を卒業後、会社員として勤務したのち、秋田県が実施している「未来農業のフロンティア育成研修」を2年間受講し、畜産について学びました。研修修了後は自宅にて就農し、家業の畜産部門を継承して独立経営しています。

自身の黒毛和種繁殖牛(飼養頭数26頭)の経営のほか、定期巡回時のヘルパーとして子畜検査や予防接種の補助事業を行っています。家畜人工授精師や家畜体内受精卵移植師の資格を持ち、地域の畜産農家から依頼があった場合は、人工授精も手がけております。また、中仙地域和牛青年部の一員となっており、今年度から青年部長に就任するなど、組織をまとめあげるリーダーとして同世代からの信頼を集めています。



くさなぎ ひでき
草薙 英樹さん (昭和43年生まれ 大仙市横堀)

短期大学を卒業後、会社員として勤務したのち、平成13年から就農しました。現在は、平成19年に設立された集落営農組織「川戸賀大豆組合」の代表を務め、大豆栽培の集団化・安定生産に取り組んでいます。

川戸賀大豆組合は、国の政策である品目横断的経営安定対策に対応するために設立された集落営農組織で、設立当初から組織の代表を務めており、17戸の農家から約30haの大豆作業を請け負っています。また、仙北大豆生産組合の一員であり、JA秋田おぼこ大豆生産振興協議会では委員を務めるなど、大仙市大豆の生産振興に尽力されています。



とざわ たくや
戸澤 卓也さん (昭和53年生まれ 大仙市太田町三本扇)

短期大学を卒業後、秋田県が実施している「未来農業のフロンティア育成研修」を2年間受講し、研修修了後の平成13年から自宅にて就農されました。

戸澤家は、平成26年2月に家族経営を法人化させて「農事組合法人トザワファーム」を設立。地域の離農者などから農地を集積し、両親とともに、持続的に地域農業を支えることができる農業経営を目指しています。現在は水稻のほかにソバ、エダマメの栽培にも取り組み、複合経営を実践されています。

また、ラジヘリの防除組織である「農事組合法人三本扇ファーム」の構成員・オペレーターとして活躍するなど、地域の若き担い手として活躍されています。

